

日本地質学会

男女共同参画の歩み

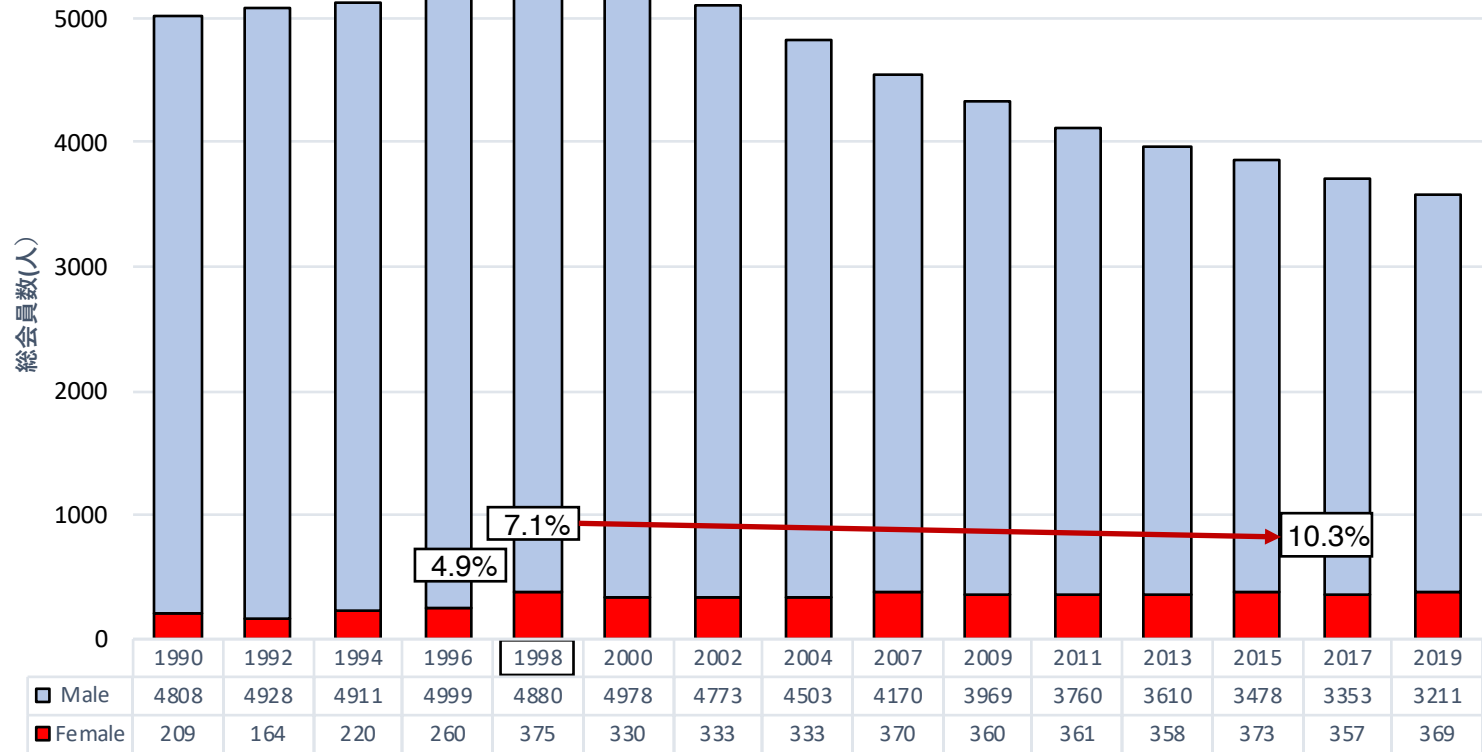
2020年度 version

Gender structure of the Geological Society of Japan

日本地質学会 男女共同参画委員会
(現) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 編

Gender and diversity committee of GSJ

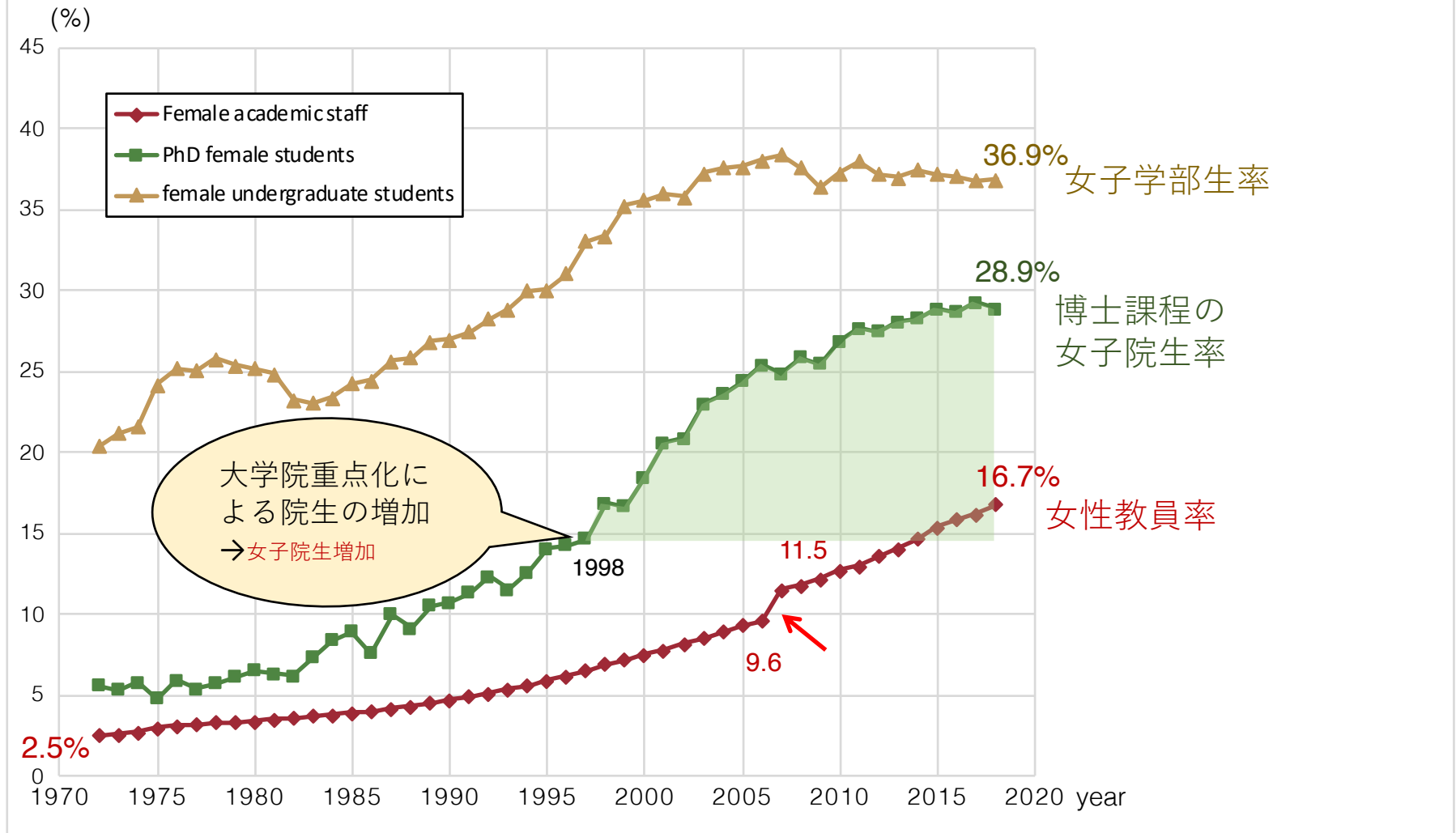
日本地質学会における女性会員と総会員数の変化 (1990-2019)



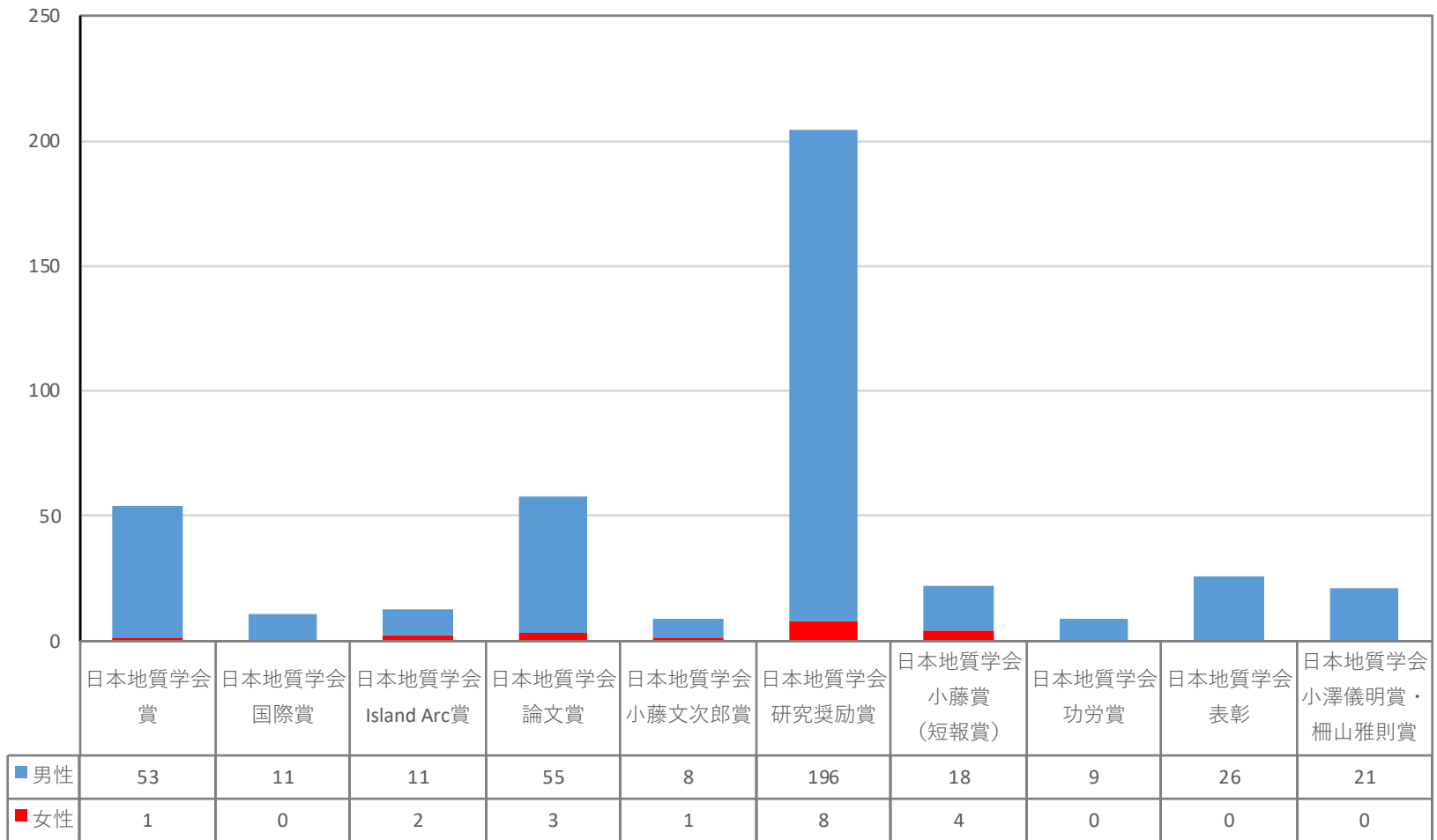
- 日本地質学会会員における男女比の変動は、1996年の4.9%から1998年の7.1%へ急増している。これは、政府による大学院重点化による大学院定員の増加と博士課程に所属する女子院生率の増加と連動している（次図参照）。その後、2002年からの地質学会の総会員数減少があるにもかかわらず、女性会員は300名代を維持し、2007年以降360名前後を維持しており、その結果、地質学会の女性会員率は10%前後を維持している。
- JpGUの女性会員15-20%と比較するとまだまだ低い%ではあるが、減少を続ける男性会員数員に対して、総数を維持していることは、日本地質学会における女性の参画はゆっくりではあるが進んでいると言える。

参考資料 Hori (2020) より引用改変 (after Hori, 2020)

国立大学における女性教員率および女子学生率の変遷



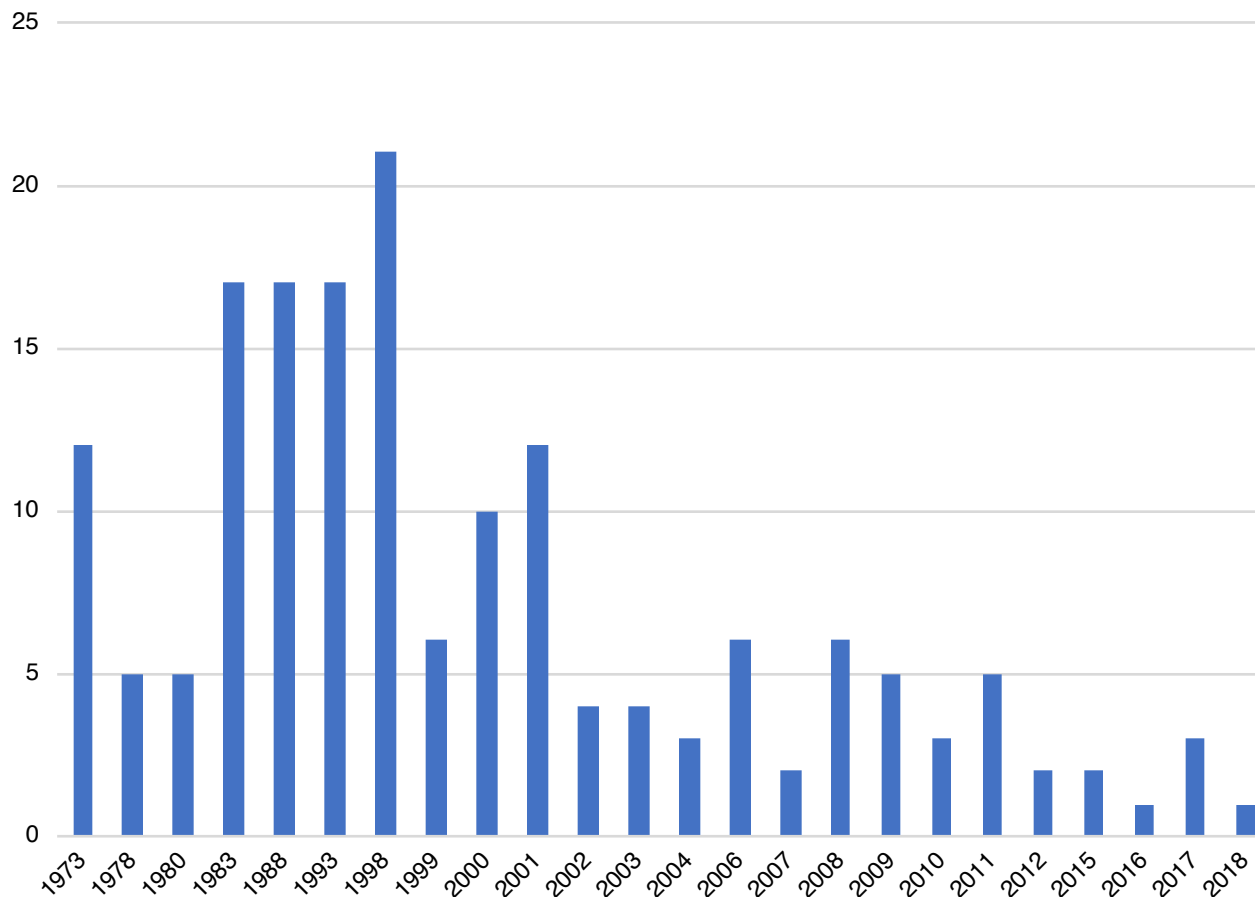
日本地質学会各賞の男女比 (Female ratios of awards among the Geological Society of Japan))



- 日本地質学会における各賞受賞者については、過去**437名**の受賞者の内、女性会員の受賞は**19名**で、**4.3%**である。現在の女性会員率**10%**前後に比べ、受賞者数が半分以下である事を見れば、今後何らかの検討・**action**が必要と判断される。

(名)

地質学会名誉会員 の動向



また名誉会員については、1973年から2018年までに196名の推戴があったが、女性会員は皆無である。名誉会員推薦資格が、75歳以上である制限があり年齢が上がるにつれ女性率が下がる傾向があるにせよ、70歳以上の400名弱の高齢会員の中で女性会員割合が1.8%ある現状を考慮すれば、本件についても検討すべき事項と言える。（青色で示したのは男性会員数）